

上場会社名 株式会社 日本トリム
 コード番号 6788 URL <http://www.nihon-trim.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2020年8月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 森澤 紳勝

(氏名) 田原 周夫

TEL 06-6456-4600

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	3,441	△17.5	455	△37.4	482	△26.9	299	△27.6
2020年3月期第1四半期	4,172	△1.4	728	△10.4	660	△14.6	414	△13.6

(注)包括利益 2021年3月期第1四半期 272百万円 (△36.8%) 2020年3月期第1四半期 431百万円 (△1.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	38.21	—
2020年3月期第1四半期	52.44	52.41

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	24,880	16,563	65.2	2,082.12
2020年3月期	22,416	17,123	74.9	2,128.85

(参考)自己資本 2021年3月期第1四半期 16,219百万円 2020年3月期 16,779百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	70.00	70.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	0.00	—	35.00	35.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,190	△28.8	360	△77.7	410	△73.0	260	△74.1	32.99
通期	14,510	△10.0	1,770	△23.2	1,870	85.5	1,220	458.4	154.78

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	8,656,780 株	2020年3月期	8,656,780 株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	866,958 株	2020年3月期	774,738 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	7,841,498 株	2020年3月期1Q	7,895,342 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結会計期間の当社グループの売上高は3,441百万円（前年同期比17.5%減）、営業利益は455百万円（同37.4%減）、経常利益は482百万円（同26.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は299百万円（同27.6%減）となりました。

当期の業績予想については2020年5月14日公表時、緊急事態宣言下にあったことから第2四半期までは新型コロナ禍の影響による厳しい状況が継続し、第3四半期より徐々に正常化していくとの想定のもと策定しておりますが、当第1四半期は期初計画よりかなり良い結果となりました。そのため営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益がいずれも第2四半期連結累計期間の業績予想を現時点で既に超える結果となっております。

（進捗率：営業利益126.6%、経常利益117.7%、親会社株主に帰属する四半期純利益115.2%）

現行の足元の状況も第1四半期同様に期初計画より好調に進捗しております。第2四半期連結累計期間の業績予想につきましては、現況、公表数値を大きく上回る見込みですが、直近の新型コロナ感染者数の全国的な再増加により今後の見通しが不透明なことから、現時点では通期業績予想もあわせ据え置いております。

医療関連事業も、新型コロナ禍の影響はあったものの全体的に順調に推移しており、当社の目指すグローバルなメディカルカンパニーに向けて着実に前進しております。

財務面におきまして、本年6月に30億円の借入れを実施しております。当社は、内部留保やキャッシュ・フローなど財務面での不安は全くありません。しかし、ウィズコロナで少なくとも来年度までは継続すると想定される厳しい経営環境を逆に契機として、WEBでの新規販売チャネル構築のための投資、中長期的視野に立った研究開発への取り組み、M&Aへの備えなど、中長期的視野に立った将来の成長のための先行投資を積極的に実施していく方針であり、そのため手許資金を厚くしたものです。

引き続き、より筋肉質な経営を目指しつつ、創業以来変わらぬベンチャー精神をもって事業を拡充してまいります。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

[ウォーターヘルスケア事業]

整水器販売事業では、当第1四半期は新型コロナ禍の影響で、4月、5月は職域販売のセミナー数が前年同月比20%程度まで減少いたしました。既存ユーザーへの買換えキャンペーンの実施やストックビジネスである浄水カートリッジ販売が順調に伸びたこと等により、収益を確保することができました。緊急事態宣言解除後は、衛生対策を十二分に実施し、新型コロナ禍下だからこそ必要な健康面、衛生面での対策の訴求や中小企業向けの展開を強化したことにより、セミナー数は6月で前年同月比約30%、7月で同約60%と徐々に回復してきております。また、セミナー参加者の健康意識の高まりから、1セミナーあたりの販売効率は大きく上昇しております。

日本トリムの整水器は家庭用の管理医療機器として、免疫力に関係の深い「腸」を整える効果が認められております。5月に発売された「ドクタークロワッサン最新版」の免疫特集では、当社の電解水素水に関する記事が掲載されました。ウィズコロナ社会において、今後、整水器への需要は大いに高まっていくものと考えております。現在その受け皿とするとともに、対面によらない新たな販売チャネルの早期構築を目的として、WEB対策のプロジェクトチームを構成し、WEB環境の整備、広告展開の最適化等に取り組んでおり、今年度中に事業部として立ち上げられる規模にまでの拡大を目指しております。そのための先行投資は積極的に実施してまいります。

ストックビジネスであるカートリッジ販売につきましては、売上高が前年同期比12.2%増と順調に伸長しており、引き続き、顧客サービスの更なる充実に取り組んでまいります。

一方、新規分野として、ウィズコロナ社会に対応するための衛生面での新製品開発に取り組んでおります。本年10月末頃発売を目指しており、下半期での収益貢献を大いに期待しております。

海外におきましては、インドネシアのボトルドウォーター事業の売上高が22.2%増（現地通貨ベース、2020年1月～3月実績）と順調に推移しました。現在は、同国においても新型コロナウイルスの感染が拡大しており、卸先の全国チェーン店を中心に展開しているペットボトルの販売量は減少しておりますが、一方で各家庭に配達販売しているガロンは伸長している状況です。引き続き現地パートナーと協力して販売拡大に努めてまいります。

研究開発につきましては、本年4月に立命館大学スポーツ健康科学部との電解水素水摂取により暑熱下持久運動中のエネルギー消費量を低減する内容の共同論文が生理学の主要国際誌「Temperature」に掲載され、また、6月には東京大学工学研究科との当社整水器の電極板の水素生成効率が非常に高いことを示す共同論文が英国科学誌「Scientific Reports」に掲載されました。さらに今年度中に理化学研究所や東北大学等との共同論文も投稿予定を合わせて7報あり、電解水素水のさらなるエビデンス強化、認知向上により整水器の普及拡大に大きな後押しとなると考えております。

以上の結果、ウォーターヘルスケア事業の売上高は3,056百万円（前年同期比19.1%減）、セグメント利益は428百万円（同33.1%減）となりました。

[医療関連事業]

電解水透析事業では、6月に関東圏での中核施設となる聖路加国際病院に多人数用電解水透析システムが導入されました。今後の波及効果が大いに期待されます。新型コロナ禍により病院への立ち入りが制限されたため、設置が第2四半期以降に延期になった案件が複数発生するなどの影響もありましたが、引き続き多くの引き合いをいただいております。今後も研究活動並びに営業活動を強化し、普及促進に取り組んでまいります。

再生医療分野では、国内約99%のシェアを占める民間さい帯血バンクであるステムセル研究所において、中長期的視野に立った事業基盤の強化、拡充に取り組んでおります。新型コロナ禍による医療施設への立ち入り制限などの影響はありましたが、新たなアプローチとして注力したWEBマーケティング施策が売上に貢献し始めております。また、現在、東京大学医科学研究所附属病院と自家さい帯保管サービスに関する共同研究を実施しており、来年の事業開始に向け、新CPC（細胞加工施設）の建設等、必要な準備を進めております。このように、「民間細胞バンク」のパイオニアとして保管技術を磨き、「さい帯血」のみならず、「さい帯」や他の細胞へと保管事業の拡大を行ってまいります。また、細胞バンクとしてのインフラを活用し、大学や製薬会社、ベンチャー等と連携し、「細胞医薬品開発」も推進しております。同社は、本年3月に東京証券取引所への新規上場承認を得たものの、新型コロナ禍に端を発するIPO市場の動向等を総合的に鑑み上場を延期いたしました。企業価値を更に高め、適切な時期の上場を考えております。

また、本年8月、新たな取り組みの一つとして、唾液によるPCR検査の受託サービスを開始し、8月4日付の日本経済新聞朝刊で記事が掲載されました。

中国病院事業では、新型コロナ禍の影響はあるものの、引き続き着実に進めてまいります。当事業に関しましては、前期末において投資額全額につき損失計上しており、当期におきましては業績に影響はございません。

以上の結果、医療関連事業の売上高は384百万円（前年同期比1.9%減）、セグメント利益は26百万円（同69.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産は24,880百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,464百万円増加（前期比11.0%増）いたしました。主な要因は、現金及び預金2,492百万円が増加したことによるものであります。

負債は8,317百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,024百万円増加（同57.1%増）いたしました。主な要因は、1年内返済予定の長期借入金3,000百万円増加したことによるものであります。

純資産は16,563百万円となり、前連結会計年度末に比べ559百万円減少（同3.3%減）いたしました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益299百万円を計上した一方で、配当金551百万円の支払及び自己株式280百万円の取得を行ったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期通期の業績予想につきましては、2020年5月14日「2020年3月期決算短信」にて公表しております。通期業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,540,829	11,033,775
受取手形及び売掛金	1,803,718	1,601,872
割賦売掛金	2,967,347	2,854,630
有価証券	—	302,035
製品	371,078	323,531
原材料及び貯蔵品	603,401	743,223
その他	204,678	290,441
貸倒引当金	△16,485	△19,133
流動資産合計	14,474,567	17,130,376
固定資産		
有形固定資産		
土地	2,467,898	2,462,032
その他(純額)	1,099,304	1,267,605
有形固定資産合計	3,567,202	3,729,637
無形固定資産		
のれん	497,387	488,108
その他	72,228	80,110
無形固定資産合計	569,616	568,218
投資その他の資産		
投資有価証券	2,829,500	2,523,352
その他	1,025,113	978,877
貸倒引当金	△49,619	△49,619
投資その他の資産合計	3,804,994	3,452,609
固定資産合計	7,941,813	7,750,466
資産合計	22,416,381	24,880,843
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	759,700	809,010
1年内返済予定の長期借入金	11,390	3,011,840
未払法人税等	189,204	96,825
前受金	2,061,308	2,152,935
賞与引当金	168,980	59,530
製品保証引当金	31,000	31,000
返品調整引当金	24,000	19,000
契約損失引当金	121,180	103,803
その他	1,240,079	1,362,133
流動負債合計	4,606,844	7,646,079
固定負債		
長期借入金	11,550	10,500
役員退職慰労引当金	212,604	213,124
退職給付に係る負債	288,063	288,662
その他	174,144	159,011
固定負債合計	686,362	671,298
負債合計	5,293,207	8,317,378

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	992,597	992,597
資本剰余金	645,641	645,641
利益剰余金	18,358,675	18,106,524
自己株式	△3,145,917	△3,426,164
株主資本合計	16,850,996	16,318,599
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,716	7,769
為替換算調整勘定	△68,789	△99,523
退職給付に係る調整累計額	△8,222	△7,464
その他の包括利益累計額合計	△71,295	△99,217
新株予約権	28,720	28,720
非支配株主持分	314,753	315,362
純資産合計	17,123,174	16,563,464
負債純資産合計	22,416,381	24,880,843

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	4,172,737	3,441,806
売上原価	1,181,292	1,010,237
売上総利益	2,991,444	2,431,569
販売費及び一般管理費	2,263,335	1,975,787
営業利益	728,109	455,781
営業外収益		
受取利息及び配当金	8,353	5,286
不動産賃貸料	19,625	19,588
為替差益	566	1,517
その他	8,487	10,693
営業外収益合計	37,032	37,086
営業外費用		
支払利息	489	446
持分法による投資損失	96,475	1,037
貸与資産減価償却費	4,050	3,922
貸倒引当金繰入額	—	2,615
その他	3,464	2,132
営業外費用合計	104,480	10,154
経常利益	660,662	482,713
税金等調整前四半期純利益	660,662	482,713
法人税、住民税及び事業税	199,962	92,204
法人税等調整額	41,241	63,792
法人税等合計	241,203	155,997
四半期純利益	419,458	326,716
非支配株主に帰属する四半期純利益	5,411	27,123
親会社株主に帰属する四半期純利益	414,047	299,592

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	419,458	326,716
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△168	2,053
為替換算調整勘定	7,563	△57,175
退職給付に係る調整額	620	758
持分法適用会社に対する持分相当額	3,540	△73
その他の包括利益合計	11,555	△54,436
四半期包括利益	431,014	272,279
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	423,287	271,670
非支配株主に係る四半期包括利益	7,726	608

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高意思決定機関が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「ウォーターヘルスケア事業」、「医療関連事業」の2つの事業セグメントを報告セグメントとしております。

「ウォーターヘルスケア事業」は、整水器販売事業及びそれに付随する業務を行っております。「医療関連事業」は、医療・予防医療分野や再生医療分野における事業等を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	合計
	ウォーターヘルスケア事業	医療関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,056,861	384,944	3,441,806	—	3,441,806
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,056,861	384,944	3,441,806	—	3,441,806
セグメント利益	428,987	26,794	455,781	—	455,781